

令和6年度第2回中央区緑化推進委員会 議事概要

【開催日】

令和7年2月18日（火）

【出席者】

学識経験者：鈴木委員長、木下委員

区民・事業者代表：中島委員、岸本委員、田中委員、吉山委員

区職員：生島委員、三留委員、早川委員

事務局：水とみどりの課

【配布資料】

- ・資料1 緑の基本計画の今後の取組等について
- ・資料2 令和7年度予算（案）のトピックス 案内図
- ・参考資料1 緑の基本計画前期（R元～5年度）の取組状況
- ・参考資料2 令和6年度第1回中央区緑化推進委員会議事概要
- ・中央区緑の基本計画 概要版
- ・中央区緑の実態調査（第5回） 概要版

議事 緑の基本計画の今後の取組等について

	意見内容
田中委員	・首都高速道路上部空間整備事業について、どのようなスケジュールであるか？ →（事務局）実際に使えるようになるのは2035年度以降であり、来年度は首都高速道路株式会社と荷重条件やどのような空間を作ることができるのか検討をスタートしていく段階である。公園の具体的な設計や工事の着工は、まだ先である。
木下委員	・資料2の案内図を見るとライン状に整備を行うものが多く、歩きやすいまちづくりに貢献するプロジェクトになっていると思う。この地図だけ見ると、事業地が分散しているように見えるが、既存の緑と重ねてみるとネットワークが強化されているのではないかと。中央区では水と緑のふれあいマップやウォーキングマップなどを作っていると思うが、こうした成果を反映し強調してPRしていくと良い。
鈴木委員長	・水上スポーツ関連施設の整備として非動力船の船着場の整備も予定されており、将来は水上からのプロムナードも想定ができる。そのためにはいろいろな方に使ってもらえるような仕掛けがないといけないので、ハードに加えてソフトの面でも頑張ってもらいたい。
岸本委員	・築地市場跡地の開発はどのような状況であるか？ →（事務局）事業予定者に対して区から要望書を出している段階である。
三留委員	・次の緑の基本計画の改定には、築地川アメニティ整備構想や築地市場跡地の開発などについて盛り込んでいけるのではないかと考えている。

	意見内容
吉山委員	・ 築地市場跡地に関しては、昨年4月に、当社を代表企業とする事業予定者が東京都により選定されている。この開発が中央区の水と緑に資するものになるように、当社としても、しっかり取り組みたい。2033年春に主要な部分がオープンするスケジュールとなっているが、できるだけ早い段階から情報発信や皆様の意見を伺えるようなことをできればよいと考えている。
早川委員	・ 築地市場跡地の開発により隅田川沿いを浜離宮庭園に向けて歩ける空間ができるようになり、築地川アメニティ整備構想やKK線の再生を含め、連続性のある緑を設けることができる。
中島委員	・ 桜川公園におけるP-PFIの進捗状況は？ →（事務局）1月末まで公募設置等計画の募集を行った。今後、2～3月に事業者選定委員会を開催し審査を行い、事業予定者を決定する予定である。その後、令和7年度に設計、令和8年度に工事、令和9年度の供用開始を予定している。
鈴木委員長	・ 資料2の街路樹整備の事業にアオギリの移植がある。どのような内容であるか？ →（事務局）当該道路において電線共同溝の工事に入るため道路の幅員が変わる。また、樹木の下にインフラ管があるため動かさざるを得ない状況である。現時点では移植を考えているが、大径木であることもあり更新する形になるかもしれない。 ・ 中央区の街路樹は良い状態にあり、普段から手入れがされていると感じている。その上で全てを残すのは限界があるため、困難なものは更新をしていくべきと考えている。
木下委員	・ 街路樹を新しく植栽する際に、樹種はどのように選んでいるのか？ →（事務局）根上がりや落ち葉などの問題が少なく、それほど高木にならないものの中で花や実が楽しめる樹種を選んでいる。 ・ 中央区らしさを考えると花木は良いのではないか。花の種類によって特徴を出せるほか、生き物の多様性向上にも恩恵がある。都市養蜂の面からも蜜源植物としておもしろい。
鈴木委員長	・ 日本橋中学校の改築に伴う千代田公園の再整備について良い計画内容となっている。 →（事務局）現状の千代田公園は、2,000㎡の敷地があるところに実際として使える部分が400㎡程度しかない。今回の再整備によって本来の公園面積を確保できるほか、立体公園制度の活用と、公園橋の整備により、隅田川テラスへ往来できる計画としている。

議事 その他（銀座ミツバチプロジェクトのTokyo-NbSアクションアワード受賞について）

	意見内容
田中委員	・ 自然を活用して社会課題を解決する取組、NbS（Nature-based Solutions）に取り組む事業者として銀座ミツバチプロジェクトが東京都から表彰を受けた。活動をとおして、短い命のミツバチがポリネーター（花粉媒介者）として多様な生き物の命を繋いでいくことの環境教育や都市から環境をデザインしていこう主張を認めていただいたのだと思う。 ・ 去年は銀座と丸の内ですべて2.7tの蜂蜜がとれた。これは国内生産量の0.1%に値する。それだけ銀座の街の周辺の環境が豊かだということだと思う。 ・ 農村は農薬を使わなければならなかったり、山はスギばかりが植えられ蜜源植物が少ない。却って都市の方が養蜂に向いた環境になっている。
中島委員	・ 何人くらいで活動しているのか？
田中委員	・ 4人で活動しているが、会員企業の方が参加してくれる。外資系企業からの参加が特に多い。

	意見内容
木下委員	・ミツバチが花粉を媒介し受粉を促していることは、非常に大事なことで数値化が難しいことである。そこが NbS として評価がされているところだと思う。
田中委員	・丸の内で花粉が足りない時期に開花する植物をエリアで植えていこうかと考えていた時に、分析計測が得意な企業が蜂蜜の分析を行ってくれたり、協力してくれる人たちがだんだん増えてきて、街全体が優しくなってきた。 ・街の環境をどうやってデザインしていくかということを次の若い世代と一緒に議論して、子供たち自身が興味を参画していくような時代になっていくとよい。